

新潟県納税貯蓄組合総連合会優秀賞

『思いやり貯金を大切に』

柏崎市立鏡が沖中学校 三年 田辺 倫太郎

二〇〇七年、私が暮らす柏崎市では大きな地震が発生しました。「中越沖地震」と名付けられたこの地震は、震度六強という非常に大きな揺れを記録し、家屋の倒壊や死者が出るほどの深刻な被害をもたらしました。私はまだ生まれていませんでしたが、今でも自宅に残るコンクリートの地割れや壁のひびから、地震の大きさを想像することができます。

当時被災した祖父母からは、柏崎市内では数日間ライフラインが止まり、学校が避難所になりました。自衛隊の方々が炊き出しや入浴施設の提供などをしてくれて、とても助かったという話を聞きました。その時の映像や写真を見せてもらうと、現在の姿からは想像できないほど崩れた街並みに、言葉を失いました。ニュースで見る被災地の光景や避難所の様子が、自分の暮らすこの街でも起きていたのだと思うと、災害は決して他人ごとではないと強く感じました。そして、多くの力によって復興が進み、変わり果てた街が再び住みやすく、災害に強い街へと生まれ変わっているのはなぜかと考えるようになりました。

今年の夏も、豪雨による災害や、隣国で起きた地震による津波被害など、様々な災害のニュースを耳にしました。災害が発生するたびに、自衛隊や消防、警察などが迅速に被災地に派遣され、被災者の救助や避難所の設営、食料や水の配布、医療活動、仮設住宅の建設等の支援活動を行っています。近年では、このような光景が当たり前になりつつありますが、これらの活動には、多くの人手と費用が必要であり、その多くは税金によって支えられていることを忘れてはいけません。

普段、大人の会話を聞いていると、「税金は少ないほうがいい」といった意見を耳にすることがあります。しかし、積み上げられた税金なしで、日本各地で発生する災害からの復興は成り立つのでしょうか。私の暮らす柏崎市も、今のような街並みに戻れたのでしょうか。おそらく、十分な支援がなければ、何十年経っても復興できず、変わり果てたままの地域もあつたはずです。そう考えると、「できるだけ支払いたくない」と思われがちな税金についての考え方が、私の中で少しずつ変わっていきました。

自然災害が多い日本での暮らしは、常に自然の脅威と隣り合わせです。今ある大切な街並みを守り、さらに発展させていくためには、税金の存在が欠かせません。私に今できること―それは、税金について学び、税金が日本全体にもたらすメリットを知ること。そして、税の仕組みを正しく理解し、税金を納める義務をしっかりと受け止めて行動することだと思っています。私は、税金は「困った時に手を差し伸べてくれる、見えない誰かに思いやりを届ける『思いやり貯金』」だと考えています。いざという時には、その貯金箱を開け、社会の誰かの役に立てるように―そんな思いを大切に、これから過ごしていこうと思います。